

注 意 報

茨城県病虫害防除所

平成 23 年 7 月 20 日

病虫害発生予察注意報 第 4 号

斑点米の原因となるカメムシ類が広範囲で発生しています

カメムシ類の発生を確認した水田では防除を徹底しましょう！

[発令の内容]

作物名 : 水稻, 陸稻
病虫害名 : 斑点米カメムシ類
発生時期 : 早い
発生量 : 多い
発生地域 : 県下全域

[発令の根拠]

- ① 7月上旬現在, 水田周辺のイネ科雑草における斑点米カメムシ類の発生地点率は平年より高く, すくい取り虫数は平年より多い (表 1)。また, 本県の水田で最も多く被害を及ぼすクモヘリカメムシも発生地点率は平年より高く, すくい取り虫数は平年より多い (表 2)。
- ② 7月上旬現在, 出穂前の水田における斑点米カメムシ類及びクモヘリカメムシの発生地点率は平年より高く, すくい取り虫数は平年より多い (表 3, 表 4)。
- ③ クモヘリカメムシの本年の産卵開始時期は, 平年より早いと予想される (クモヘリカメムシの発育に有効な気温の積算値から算出)。
- ④ 気象予報 (7月 15 日発表) によると, 向こう 1 か月の気温は平年並か高いと予想され, 発生を助長する条件である。

表 1 イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の生息状況 (平成 23 年 7 月上旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)			すくい取り虫数 (頭/10 回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (6)	50	59	7-8	3.7	8.6	6
県央 (13)	92	60	1	73.1	5.3	1
鹿行 (5)	60	70	8	13.0	3.9	1
県南 (18)	72	64	5	10.9	6.1	2
県西 (7)	86	61	3	6.4	9.8	8
全県 (49)	76	63	2	26.1	6.0	1

1) 平年: 平成 13~22 年までの 10 年間の平均値を示す。

2) 順位: 過去 11 年間に於ける本年値の順位を示す (7-8 は 7 位から 8 位まで同じ数値であることを表す)。

表 2 イネ科雑草地におけるクモヘリカメムシの生息状況 (平成 23 年 7 月上旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)			すくい取り虫数 (頭/10 回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (6)	0	9	5-11	0.0	2.0	5-11
県央 (13)	23	11	3	23.2	0.5	1
鹿行 (5)	20	10	3-4	0.2	0.6	3-4
県南 (18)	6	2	3	2.3	0.0	1
県西 (7)	14	5	2	0.1	0.1	2
全県 (49)	12	7	2	7.0	0.5	1

1) 平年: 平成 13~22 年までの 10 年間の平均値を示す。

2) 順位: 過去 11 年間に於ける本年値の順位を示す (5-11 は 5 位から 11 位まで同じ数値であることを表す)。

表3 水田における斑点米カメムシ類の生息状況(平成23年7月上旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	33	11	1	3.0	0.1	1
県央 (15)	27	10	1	0.2	0.2	4
鹿行 (6)	17	12	2	0.2	0.2	3
県南 (19)	26	7	1	0.3	0.1	2
県西 (9)	22	4	1	0.7	0.0	1
全県 (58)	26	8	1	0.7	0.1	1

1) 平年:平成13~22年までの10年間の平均値を示す。

表4 水田におけるクモヘリカメムシの生息状況(平成23年7月上旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (9)	22	5	1-2	2.8	0.1	1
県央 (15)	20	3	1	0.1	0.1	3
鹿行 (6)	17	8	2-4	0.1	0.2	4
県南 (19)	11	2	1-2	0.1	0.0	3
県西 (9)	11	1	1	0.7	0.0	1
全県 (58)	16	3	1	0.6	0.1	1

1) 平年:平成13~22年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間の本年値の順位を示す(1-2は1位から2位まで同じ数値であることを表す)。

[防除対策]

- ① 水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるので除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂二週間前までに終わらせる。
- ② あきたこまち等の早生の水田では、成虫の飛来が集中する恐れがある。また、その他の品種についても周辺より出穂の早い水田では、発生に特に注意する。
- ③ 出穂の遅い水田では、周辺の水田等で増殖した新成虫が8月下旬以降でも侵入するので、発生には十分注意する。陸稲においても水稻と同様に発生に注意する。
- ④ 斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ⑤ 斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除適期は、出穂10~15日後頃である。クモヘリカメムシ幼虫の本年の防除適期は平年より早く、県南・県西地域で7月下旬に出穂するコシヒカリで8月6日~10日頃、県北・県央・鹿行地域で8月初めに出穂するコシヒカリで8月11日~15日頃と予想される。
- ⑥ 防除薬剤は表5を参考にする。斑点米の発生を防止するためには、特に⑤の幼虫防除が重要である。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

表5 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成23年7月6日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数－ 剤の使用回数	有効成分	有効成分の総使用回数
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	7-3	ジノテフラン	4 (育苗箱処理及び側条施用 合計1,本田散布,空中散布, 無人ヘリ散布は合計3)
キラップフロアブル	1,000～2,000 倍	14-2	エチプロール	2
スミチオン乳剤	1,000 倍	21-2	MEP	3 (種もみへの処理1, 育苗箱散布1,本田2)
MR. ジョーカーEW	2,000 倍	14-2	シラフルオフエン	2

注 1) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意して使用する。

注 2) 育苗箱施薬，有人ヘリ防除または無人ヘリ防除を行っている場合は，本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意する。

注 3) 水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに，止水期間は一週間程度とする。



写真1 クモヘリカメムシ成虫



写真2 クモヘリカメムシ幼虫



写真3 イネカメムシ成虫



写真4 斑点米